

# 『アジア・アフリカ研究』執筆要領

2018年11月17日改訂

## I 全般的な注意事項

### 1 文字量等

40字35行にし、原則として15～25枚程度にする。依頼論文で、本誌30ページをこえる場合は、前後編等に分割することができる。ただし、前編の冒頭に後編の構成を明記し、研究所編集委員会の承認を得なければならない。後編は、編集上の理由によるもののほかは、次号掲載を原則とする。

### 2 見出し

本文は大見出し（節題）をⅠ、Ⅱ、Ⅲ・・・、中見出し（項題）を1、2、3・・・、小見出しを(1) (2) (3)・・・とする。

### 3 概要

論文が邦文の場合は英語、英文の場合は日本語で、冒頭に20行以内の概要（abstract）を付ける。

### 4 目次

論文題名と氏名（英文の場合は日本語の概要も）に続いて、目次を記載する。目次には大見出しまでを入れ、中見出し以下は省略する。

### 5 全角、半角

邦文は原則として全角とする。邦文中の句読点や記号も全角文字とする。欧文文字は半角とする。英文で書かれた概要や邦文本文中で用いられる欧文も半角とする。アラビア数字も半角とする。

例) 「NPO」「ASEAN」ではなく「NPO」「ASEAN」

### 6 数字

数字は原則としてアラビア数字（算用数字）を使う。ただし、固有名詞、慣用句、概数の場合は原則として漢数字を用いる。その他、アラビア数字だと不自然な場合は漢数字を用いる。

## II 注

### 1 注に関する注意事項

注は本文中では記述しづらいが、言及すべきことがある場合に用いる。文献の参照を求めるために用いてはならない。参照や引用した文献を示すためには、後述の文献注（出典を示す注）を用い、文献の書誌情報（論文名、書名、出版社など）は原稿末の文献リストに記載する。著者名、出版年だけの記載も、注にするのではなく、文献注の形にする。

### 2 注の形式

注は通し番号を付し、原稿末にまとめる。

例) …ジェンダー規範への影響は多元的かつ重層化していると考えられる<sup>(2)</sup>。(中略)  
フィリピンのように国際労働移動の女性化が一般化した国においても継続している<sup>(3)</sup>。

### 3 文献注

原則として本文や注では文献の書誌情報（論文名、書名、出版社を含むもの）を記載しない。著者名、出版年、引用頁のみを記載し、その他の情報は文献リストにまとめて記載する。地の文で文献に触れるときは、「著者名（出版年）」「著者名（出版年：頁）」の形式とする。文中にカッコ書きで示すときは、「(著者名 出版年)」 「(著者名 出版年：頁)」の形式とする。出版年と頁のあいだに半角コロンと半角スペースを入れる。書評論文等において同一文献が頻出して煩雑になる場合は、独自の記載方法を明記して使用することができる。

例) 藤田（2016）によると…。

…とされる（Sassen 2014=2017）。〔2014 は原書の出版年、2017 は訳書の出版年〕  
「…である」（Ietto-Gillies 2012=2012: 29）。〔引用の場合は頁を必ず入れる〕

### 4 複数の文献

ひとつの箇所では同一著者の複数の文献を示すときは、半角カンマと半角スペースを用いて、出版年を列挙する。ひとつの箇所では著者の異なる複数の文献を示すときは、半角セミコロンと半角スペースを用いて、著者名と出版年を列挙する。

例) …である（フレイザー2001, 2005）。

…とされる（伊藤 2008; 鈴木 2003）。

### 5 著者名がない場合

著者が付いていない刊行物の場合は、発行機関名を表記する。

例) 厚生労働省 (2016)

Philippines Overseas Employment Agency (2015)

## 6 2 度目以後の引用

2 度目以後の引用の場合にも、著者名と出版年を記載する。前掲書、前掲論文、同上書、同上論文、op.cit.、Ibid.は用いない。

## III 文献

### 1 文献リスト

文献リストには本文あるいは注で使用した文献を必ず記載する。原則として本文あるいは注で使用していない文献は記載しない。

### 2 文献リストと言語

文献は言語によって分けてもよい (たとえば、日本語文献と中国語文献を分けて記載してもよい)。ただし、五十音順やアルファベット順などに整理して記載する。原則として、外国語文献は原語で記載し、必要な場合は日本語訳を付ける。

### 3 書誌情報の記載内容と順番

著者名 (出版年) 『書名』 出版社。

著者名 (出版年) 「論文名」 編者名 『書名』 出版社、最初の頁-最後の頁。

著者名 (出版年) 「論文名」 『雑誌名』 巻(号): 最初の頁-最後の頁。

外国語文献もこれに準じる。

### 4 同一の著者の文献

同一著者の文献が複数ある場合は、刊行年で昇順に並べる。また、著者名を 2 つ目以降は—— (4 倍ダッシュ) で表記する。

例)

福島浩治 (2018a) 「発展経路の軌道修正——フィリピン経済の「負の脱工業化」と政治的動揺」『駒澤大学経済学論集』 49(1/2): 43-55。

—— (2018b) 「ジェンダー・パラドクス——「流動的低賃金労働力」論から支配のメカニズムへ」『アジア・アフリカ研究』 58(3): 1-18。

後藤政子・山崎圭一編 (2017) 『ラテンアメリカはどこへ行く』 ミネルヴァ書房。

Kymlicka, Will (2000) “American Multiculturalism and the ‘Nations Within,’” Duncan Ivison, Paul Patton and Will Sanders eds. *Political Theory and the Rights of Indigenous Peoples*, Cambridge: Cambridge University Press, 216-236.

松下洸 (2012) 「グローバル・サウスを見るひとつの視点」藤田和子・松下洸編『新自由主義に揺れるグローバル・サウス——いま世界をどう見るか』ミネルヴァ書房、1-11。

Otero, Gerardo (2011) “Neoliberal Globalization, NAFTA, and Migration: Mexico’s Loss of Food and Labor Sovereignty,” *Journal of Poverty*, 15: 384-402.

Sassen, Saskia (2014) *Expulsion: Brutality and Complexity in the Global Economy*, Cambridge: Harvard University Press (伊藤茂訳『グローバル資本主義と〈放逐〉の論理——不可視化されゆく人々と空間』明石書店、2017年)

## 5 新聞記事

署名記事は上記の著者名のところに執筆者名を入れる。無署名記事は、『『新聞名』(出版年)「記事名」刊行月日。』とする。外国語記事の場合もこれに準じる。

## 6 インターネット、ウェブサイト上の情報

インターネット上の文書(公文書、新聞記事、ブログなど)を使用する場合も、原則として注ではなく原稿末の文献リストに記載する。記載事項には、URLとアクセス日も含まなければならない。

例)

アジア・アフリカ研究所(2007)「目的と歩み」アジア・アフリカ研究所(2013年12月20日アクセス、[http://www.aaij.or.jp/mission\\_history/index.html](http://www.aaij.or.jp/mission_history/index.html))。

## 7 その他の文献

その他の種類の文献は上記の記載方法に準じる。

# IV 図表

## 1 図表のタイトル

図表には表1、表2、図1、図2のように図と表に分けたうえで番号を付す。図表の番号に続いて図表のタイトルを記載する。図表の番号とタイトルは、図の場合は図の下に、表の場合は表の上に付ける。

## 2 出所、出典、注

図表には出所を明示する。自ら作成したものには「筆者作成」などと記載する。必要な

場合は図表に注も付ける。

以上